

1 保護者の学校評価の考察と改善策について

○ 結果

- ・今年度、配布方法を配布する月の月末に転出する児童生徒を除いて配布したところ、回収率が53%から73%に向上した。
- ・全項目について平均点が「3.5」以上となった。
- ・最も高い平均点だった項目：「18お子様がいじめや体罰のない学校生活を送っている。」
- ・最も低い平均点だった項目：「15地域の学校との交流教育活動や、地域の人々や教育資源（ゲストティーチャーなど）の活用等が行われている。」
- ・昨年度の平均点「3.1」から「3.7」に向上した項目：「13保護者とともにPTA活動など、学校づくりを進めることが意識されている。」
- ・自由記述において、教職員の指導に対する肯定的な意見をいただいている一方、医療的ケアの必要な生徒への現場実習における対応について改善を求める意見が挙げられた。

● 考察と改善策

- ・全項目について平均点が「3.5」以上となり、おおむね本校の教育活動に賛同いただいていると考えられます。
- ・転出入が多いという本校の特色から、学校評価をより学校運営に生かすため、保護者用の学校評価の配布方法を改善します。
- ・昨年度から平均点が上がった項目は、コロナ禍による対策が緩和されたことにより、PTAの皆様との活動が再開されたことの表れだということができます。
- ・「Aあてはまる」、「Bややあてはまる」の評価が100%となる項目の内容から、本校の教職員が児童生徒等の指導とともに保護者対応についても丁寧に行っていることが評価されたと考えます。今後も、児童生徒等の的確な実態把握に基づいた指導及び丁寧な保護者対応を行っていきます。
- ・医療的ケアの必要な児童生徒等の現場実習における対応については改善するとともに、医療的ケアの必要な児童生徒及びその保護者が安心して通うことができるよう改善します。

2 教職員の学校評価の考察と改善策について

○ 結果

- ・最も高い平均点だった項目：「25体罰や体罰につながりかねない不適切な指導を見過ごさず、体罰防止に関する取組の抜本的な強化に取り組んでいる。」
- ・最も低い平均点だった項目：「17地域の人々や教育資源（ゲストティーチャー等）を活用するなど、地域社会との連携を深める取組を進めている。」
- ・昨年度から最も平均点が下がった項目：「2各学部、各教科等で育成を目指す資質・能力を意識し、子ども一人一人の教育的ニーズに応じ「個別の指導計画」を作成している。」
- ・特に評価が低かった項目：

- ①地域の人々や教育資源（ゲストティーチャー等）を活用するなど、地域社会との連携を深める取組を進めている。
- ②ワークライフバランス（働き方改革）を意識して効率的な業務推進に取り組んでいる。

● 考察と改善策

- ・平均点が高かった項目は、児童生徒等に対する人権意識や安心できる学習環境の整備、一人一人の障害の特性や発達の状態に応じた指導に関する項目であることから、本校教職員がこれらの項目に高い意識を持って取り組んでいると考えられます。
- ・一方で、「あまりできない」、「できていない」が25%以上であった、外部機関等との連携やICT機器の活用については、今後の本校の課題と捉えています。
- ・特に、ワークライフバランスを意識した働き方について、昨年度も最も評価が低かったことや、今年度の自由記述にも多くの意見が挙げられていることから学校全体の課題ととらえ、改善に向け校内で検討を進めています。